

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701331		
法人名	医療法人 香林会		
事業所名	グループホーム 螢の郷(ユニット名 西、東 ユニット)		
所在地	北九州市八幡西区香月西3丁目10-17		
自己評価作成日	平成26年8月16日	評価結果確定日	平成28年9月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

螢の郷は、開業以来14年の月日がたち、入居者も高齢化し、要介護も重度化して、以前よりも多くの介護を要するようになってきている。そのなかで、職員みんなで、入居者の尊厳、その人らしい生活をかんがえ、ケアにあたっている。食事のほうも、毎日おいしく召し上がって頂けるよう、バランスの取れた食事を提供している。また、職員も希望休をだして休みがとれるようにして、笑顔で介護できるようにとりにくんでいる。職員も入居者も笑顔がみられ、笑い声がきこえるグループホームが螢の郷です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年8月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「螢の郷」は近隣にある医療法人を母体とする2ユニットグループホームで、同敷地内には老健が併設されている。目の前には香月中央公園があり、近くを流れる黒川には、施設の名前の由来ともなる螢が飛来するような自然環境に恵まれた立地にある。母体病院は診療科目も多く、入居者には夜間対応も出来ることで家族にも安心されている。今年からは所内交流会「美螢の会」を組織し、入居者と職員のざっくばらんなコミュニケーションを行い、月の行事や個人のやりたいことなどを一緒に話し合う機会をもつことで、入居者の主体性をもった意見の引出しにつながっている。木の温かみが活かされる平屋建てで中庭もある造りは、昔の日本家屋のような情緒もあり、開設から14年が経っても清潔にされていた。日頃から入居者と自然と笑顔が出るような関わりを目指し、気持ちに余裕をもって働けるような環境整備も心がけている。今後はますます地域の支えとなるような活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)
		65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
		66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
		67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
		69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニットごとに作り、ユニットに掲示している。また、毎月のカンファレンスのはじめに、唱和している。	事業所全体の理念と、数年前に作られたユニットごとの理念が、玄関や各フロアに掲示され目につくようにしている。2ヶ月ごとに理念の実践項目に基づいた勉強会を開催しており、その期間中の取り組みをアンケートで確認したり、翌月の実践項目を話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センターのふれあい昼食会に、参加している。市民センターのクラブの方に、踊り、楽器の演奏などを披露していただいている。また、朝のラジオ体操にも参加をしています。	ほぼ毎月開かれる、「ふれあい昼食会」には入居者も何名かお連れして毎回参加している。登録ボランティアに来て頂くこともあり、その際は老健の利用者と一緒に楽しんでいる。近隣の高校生の職場実習の受け入れは毎年行っており、一昨年から幼稚園との交流も始まり、慰問に来てもらったり、運動会の見学もしている。	市民センターを中心とした催しや、関係の活用は積極的にしているが、事業所からの情報発信なども行うことで、さらに地域に知ってもらい取り組みを検討されてはどうだろうか。キャラバンメイトやサポーター養成活動など出来ることから情報集されることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御利用者の方と地域に出て行くことで、認知症であっても、適切な支援があれば、普通に生活できるという事を実践しているが、地域の高齢者の役に立っているとは言えない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、運営報告、事故報告、行事、研修報告を行っている。家族の個人的な参加は難しいので、家族行事や敬老会の中で、運営推進会議を行っている。	運営推進会議には地区会長、地域包括などが参加され、ボランティア行事や食事会などとも同日に開催することもあり、その際は家族や入居者の参加も多い。運営やヒヤリハット報告、行事報告のほか、地域情報を頂くこともある。普段は家族の参加は少ないが、行事との同日開催時には参加しており、議事録も全員に面会時手渡している。	民生委員や自治会長、町内会長、近隣の方など、近い地域の方の参加をお願いしていくことで、より地域との関係を深めるきっかけになるような運営推進会議になることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に、運営推進会議で事業所の実情を伝えている。	運営推進会議に地域包括の職員に参加してもらっており、その際に入居情報を伝え、市役所にも空き情報を毎月FAXで報告している。介護申請は窓口を訪問して行く。市主催のグループホーム協議会があり、年に1回は行政との意見交換や交流の場もたれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修に参加した職員が、勉強会で発表し、講習している。玄関施錠は必要時行っているが、必要のないときは、すみやかに解除している。	基本的に日中は玄関施錠しておらず、センサーチャイムによって管理しており、職員が出来る際は見守りで対応もする。テーブルの配置などで、無意識の内に拘束行為をすることがないように、スピーチロックなども含めて、研修や勉強会、事業所内の実践項目などの中で意識づけている。現在徘徊リスクの高い方もいるが、離設に備えて近隣の交番にも協力を呼び掛けている。	

H28自己・外部評価表(GH蜚の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行った職員が勉強会で発表し、伝達講習している。カンファなどで、日常の場面をふりかえり、知らないうちに虐待につながっていないかを話し合ったりする。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に行った職員が、事例を通して報告しているが、あまり身近ではないため、詳細は把握できていない。	今までに制度利用に至った入居者はいなかった。毎年外部研修にも職員が担当を変えて参加しており、内部での勉強会での伝達もしている。一般的な程度の知識理解は進めている。	今のところ利用も想定されていないが、必要時に備えて制度説明の資料やパンフレットの準備が進められることが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するときは、ご家族と十分に話をしている。入居後もこちらから声をかけて、不安や疑問がないかをたずねるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者との日常会話のなかで、苦情、不満を聴くようにしている。御家族にも面会の際に、意見を出しやすいようにコミュニケーションをとっている。	支払いを現金払いでお願いしているため、必ず月1回以上は全家族が面会に来ており、ほぼ毎日の方もいる。意見や要望などはその時に聞くことが多い。食事会形式で行事を開き、家族にも来てもらってコミュニケーションの機会をもっている。毎月の報告のほか、プランの見直し時には写真付きのプラン表でお知らせもしている。	家族や入居者の隠れた意見などを引き出すために、食事会や運営推進会議での話の引き出し方や、テーマをもった話し合い、またアンケートなども検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから職員が気兼ねせずに意見を言えるような、環境作り心がけている。	毎月のケアカンファレンスには夜勤者以外がパートを含め全員が参加し、それぞれが自分の意見を持ち寄って話し合っており、最近では業務分担の役割変更や時間配分の見直しに関しての提案があった。管理者にも日頃から意見は言いやすく、何かあった際にも気軽に相談することができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間は定時を基本として、休み希望を取り入れた勤務をつくり、無理なく勤務できるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用は性別や年齢を理由に、採用対象から外していない。職員の年齢層もさまざまである。希望休もとれ、社会参加や、自己実現もできる環境を提供している。	男性職員数名と女性職員がおり、20歳代～50歳代の職員が多い。定年の延長制度もあり、希望すれば相談することができる。希望休暇や休憩もとられており、ゆとりのあるケアに役立っている。職員もモノづくりや、料理などに特技を生かしており、笑顔のあるケアを心がけている。研修案内もきており、き、希望したものに参加することもできる	

H28自己・外部評価表(GH蜚の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	二ヶ月に一度、勉強会で意識して話題にしている。日常の業務で、入居者に対する人権を意識しながら、取り組むようにしている。	各ユニット理念の中に尊厳に関する文言があり、それに沿う形で実践項目に取り入れており、慣れによる失礼なケアがないように気を付けている。	一般的な人権学習や、研修などに事業所として取り込まれることが期待される。関連団体によるDVDなどの資料貸し出しを受けたり、外部研修参加時の関連項目の伝達、資料共有などもされてはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた研修をうける機会をつくっている。月に1、2人は勤務として研修に行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入っており、研修会で他のグループホーム職員と交流を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者もしくはケアマネージャーがご本人と話すようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安、疑問は解消できるまで、じっくりと話をするようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、相談に来られた際、要望を細かく聴くようにしている。併設の香月の杜(介護老人保健施設)の情報提供や、要望にあったグループホームの見学も提案している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者と共に過ごす時間を大切にしている。御利用者を一人の人として接していくようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日々の事をお伝えし、意見をきいて、ご本人が自分らしさをだしながら生活できるように援助していく。		

H28自己・外部評価表(GH蛍の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や、昔なじみの方がこられたときには、ゆっくり過ごしていただくように、配慮している。	家族の面会機会は多く、それ以外にも知人や友人が来る方もいる。家族に協力してもらって、自宅に一時戻って掃除をしたり、行き慣れた美容室に行くこともあった。継続的に一時外泊する方もおり、家族も協力的である。事業所から支援して個別ケアで面会の要望などに応えることもあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によっては職員が間に入り、御利用者の円滑なコミュニケーションがはかれるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護に関する相談などあれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報を入居時に聞き取り、その人らしい生活がおくれるように、趣味、嗜好を把握するようにしている。	入居時には家族にシートを直接書いてもらって生活歴の把握に生かしている。主に管理者かケアマネのどちらかが携わり、独自様式でアセスメントし、4か月で見直しも行う。今年から「美蛍の会」という入居者の意向を引き出す社内の茶話会を実施しており、徐々に入居者の意思表示への手ごたえを得つつある。昔からなじみのある品を使ったり、好きだったお茶を提供したりして刺激にもつなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に詳しくアセスメントを記入し、ご家族には御本人のプロフィールをかいていただき、生活歴の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に毎日記録し、連絡ノートで常時職員間で情報を共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の希望があれば、介護計画にとりいれる。	ケアプランは主にケアマネが作成し、4か月ごとに見直しも行う。職員は担当制で、能力や経験によって分けており、プランの素案作成、アセスメント、モニタリングなどを担う職員もいる。見直し時には担当者会議も開催し、家族の意見なども取り入れ、本人のしたいことをプランに入れ込むように取り組んでいる。	

H28自己・外部評価表(GH蜚の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、連絡ノートを活用し、報告、連絡、相談を密に行うように心がけている。またカンファレンスで確認するようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への通院、リハビリの送迎、入退院の支援、個々の買い物、食事の中に食べたいものをとりいれたりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	香月市民センターのふれあい昼食会に参加している。昔なじみの美容院に行かれている方もいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であるが、入居に関して主治医の変更の必要はない。御家族に説明している。	母体が医療法人であるため、そこをかかりつけ医とする方が多い。外部のかかりつけを継続することもでき、その際は家族に通院介助してもらっている。母体病院も近いため、通院での受診や、何かあった際の連絡もしやすい。家族との情報共有は迅速に行い、連絡ノートを使って十分にされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、入居者の健康状態を観察し、何か変化があれば、看護師に相談、報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が主治医と連絡をとり、早期退院に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族の意向を尊重し介護、看護スタッフ、病院で共有し、支援している。	看取り指針を定めており、希望があった場合には最期まで支援している。契約時に指針を説明し、重度化の際に改めて、医師、家族、看護師でそれぞれ場を持って意向の確認をしている。今年に入ってから4名の方を看取っており、母体のかかりつけ医もその際には24時間対応で訪問診療を行う。今年ターミナルケアに関する研修にも参加した。	

H28自己・外部評価表(GH蛭の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルを作っている。いつでもみれるようにしている。また、研修にいき、勉強会で参加者に心肺蘇生訓練を実践している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年二回行っている。夜間想定訓練もおこなっている。水消火器での消火訓練もおこなっている。	年2回のうち1回は消防署立ち合いの訓練、夜間想定訓練を行う。平屋建ての造りのため避難経路の確保もしやすい。備蓄物は水のみ確保しており、食料品は多めに発注する形で賄っている。訓練時は主に新人を中心に担当するようにしている。	併設の老健とも、非常時の協力体制を強化するため、訓練時も相互協力の取り組みを検討されてはどうか。また、運営推進会議など同日開催することで、地域の方との協力体制が築かれることにも期待したい。市民センターでの地域防災にも参加検討されてはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に応じたこえ声かけを行っている。職員間のコミュニケーションもとって、お互いに意見が言い易い環境である。コミュニケーションの研修にも参加している。	排泄時の声掛けも本人だけに聞こえるように配慮し、尊厳を尊重したケアを心がけている。マナーに関しての研修も受講している。生活歴の記録も参考にして、得意なこと、聞かれたくないことを把握して会話の助けにしている。関係を保ちつつも、なれ合いにはならないように、職員同士でも注意しあっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者の表情や様子観察しながら声かけを行い、本人の希望をうかがって介護している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の何人かは、自分で居室にもどり、自分のペースですぐすように援助している。また、食事也希望があれば、後で食べたりしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出支援のときなど、できるだけ御本人に衣装を選んでもらうようにしている。理美容も、髪型や長さなど、本人や家族の意見を聴くようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の買い物に、好きなものや食べたい物を聴いて、メニューにとりいれている。また、入居者の状態に応じて、片づけに参加されている方もいる。	週替わりで職員が担当してメニューを作成し、買い物や配達で食材を手配している。調理もその日の担当がユニットごとに行い、出来る人は配下膳や調理レクでの調理なども手伝う。おかずの品数も多く、バラエティ豊かな食事を提供し、入居者にも喜ばれていた。職員も同じものを同じ時間に食事し、自分のペースでゆっくりと食事が楽しまれていた。	

H28自己・外部評価表(GH蜚の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは職員全員で、栄養のバランスを考えてメニューをつくっている。水分は、食事、おやつ、入浴後摂取している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。できるだけ本人にしていいただき、出来ないところを介助している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使いパターンをつかみ、なるべく失禁をへらすようにしている。トイレでの排泄を優先している。	以前ヒヤリハットがあつてから、トイレに手すりを増設し、それ以降は事故も起きなくなった。排泄チェック表をユニットごとに管理しており、それぞれの入居者に合わせた介助方法を検討し、パットのサイズなどもケアカンファレンスで意見を出し合って負担が軽減されるように取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食前体操など、日常的に体を動かすことをとりいれている。また、メニューのなかに、食物繊維を多く含んだものを取り入れている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴の時間はだいたい決まっているが、拒む方には、曜日を変えたりして、対応している。一人ずつゆっくりと入浴している。	2方向介助が出来るよう角に浴槽が置かれ、床はタイル張りで窓付きの普通浴室である。基本は週3回程度、午前から昼過ぎまでの入浴で、希望があれば毎日でも対応できる。拒まれる方もいるが時間や担当を変えてうまく対応しており、皮膚状態の観察機会としても看護師と相談して役立っている。柚子や菖蒲など季節浴の楽しみも持たせている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後や、外出後など、御本人の状態にあわせて、自室での臥床をとりいれている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく内服薬が開始になった時には、職員に文書で伝えている。服薬時、とろみの水分を使ったりして、服薬しやすくしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方ができることをしていただいている。(洗濯物を干す、たたむ、食事のあとかたづけ、近隣散歩、外出支援など)		

H28自己・外部評価表(GH蛍の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物のときに声かけし、スタッフと一緒に買い物にいたり、外出の計画をたてるときに、行きたいところを聴いたりしている。	ユニットごとに、季節の花見や、外食などに月1回程度の外出行事をしている。主に少人数で動くことが多く、日頃も計画外で近隣のドライブや買い物に行くこともある。近隣のロケーションもいため、気候のいい時期は公園に行ったり、散歩を楽しむことも多い。今からは「美蛍の会」で要望を引き出して、行きたいところへの支援を計画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されるかたは、おこずかいを所有している。外出時におやつを買ったり、職員がスーパーに買いにいくときに、お菓子やくだものを買ってきたりすることもある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ユニットにそれぞれ電話があり、電話をされている方もいる。年賀状や葉書が届く方もいる。年賀状を出される方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度はエアコンを使ったり、自然の風をとりいれたりしている。香月中央公園を窓から眺めることを習慣としている方もいる。	30畳ほどある広めのホールには各所に2人掛けのテーブルが置かれ、入居者も思い思いの場所でゆったりと過ごしている。中庭と裏庭に面しているため採光も良く、季節折々の自然が間近に感じられる。フローリング調の床張りで掃除も行き届いており、調度品や戸口も木の温かみを感じられる造りである。中庭を囲んだ回廊式のため、室内で歩行訓練も可能で東ユニットには寄贈された水槽で熱帯魚が飼われ憩いの空間づくりに一役かっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子で過ごされたり、キッチンの椅子で過ごされたり、居心地が悪くないか、スタッフが見守りをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までに遣っていた家具を自宅から持参していただいている。また、ご家族から、その家具のエピソードを聴くようにしている。	ホールを囲む形で居室が配置され、戸口は障子戸になっている。腰高の窓は出窓になっており、飾りや仏壇も置けるスペースになっている。押入れも1.5畳ほどあり収納にも余裕がある。ベッドなどは基本的に持ち込みだが事業所にある時にはそれを使うこともできる。広さに余裕があるため家族などが来た時も室内で過ごすことができる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体は、バリアフリー化されていないので、必要時見守り、介助で対応している。職員間で情報を共有し、自立支援を目指している。		